

「1時間ごとの解説編」は、限られた授業時数で一層難しくなっているご指導に役立てていただくために、新たに制作する指導書です。

1見開きに1単位時間分の内容を掲載することを基本として、発問例と学習活動など授業の展開、評価と指導のポイントなどを教科書の該当箇所と関連付けて掲載します。

# 「1時間ごとの解説編」は「入門編」に名称が変わりました。

3年間、87.5時間分の授業モデルを掲載し、B5判 224ページ（予定。変更する場合があります。）

### 教科書該当ページ

この見開きで解説する授業に該当する教科書のページを示します。

### 準備

当該授業で使用する掲示資料やワークシートなど（本指導書の他編の該当ページなど）の教材や教具を示します。

### 教科書ページ縮刷

該当教科書ページの縮刷を掲載し、事業展開のどの部分に当たるかを示します。

### 授業展開

学習活動、指導の留意点と評価のポイントを導入からまとめまで1単位時間の流れを追って示します。解説や板書も示します。

### 各内容での位置づけ

本時がABCDの各内容の何時間目の授業にあたるかを示します。（○が本時）

### 授業展開（続き）

授業の展開の中で行う評価のための活動と観点も示します。

### 本時の特設 ポイント解説

生徒の興味・関心をひくこぼれ話や、ちょっと深入りした発展的な内容、他教科との関連、家庭実践に結びつけるヒントなどを掲載します。

### 次時の準備

次時、次時以降の実習等のために、このタイミングで必要な準備を示します。

家庭分野のアイディアズ	家族・家庭と子どもの成長 (21h) 本時：14/21	わたしの成長と家族 ○○	わたしたちと家族・家庭と地域 ○○○	幼児の生活と遊び ○○○○○○○○	幼児とのふれあい ●○○○○○	これからのわたしと家族 ○○
-------------	-----------------------------	--------------	--------------------	-------------------	-----------------	----------------

教科書ページ 48～50 準備 技術・家庭 DVD [児童とふれ合う] 複写機ワークシート p.14 前年度実施の生徒の作成した新聞など

#### 4 幼児とのふれあい

1 ふれあい体験の前に

2

3

4

#### 幼児とふれあう準備をする

ふれあいの経験で自分の課題を決めたら、ふれあいの場でもなんでもかかろうとしたり、訪問先と連絡を取って打ち合わせをしたりしてみましょう。

体験前	体験中	体験後
自分の課題をもつ	幼児とのかかわり方を考える	ふれあいの体験を振り返る

自分の課題を決めよう。

- 1 準備する
- 2 準備する
- 3 準備する
- 4 準備する

5

#### 授業展開 ★は評価（4観点）

導入 幼児とのふれあいについて考える。

- 本時の目標を確認する。—①
- 訪問先の施設のVTRやこれまでの記録、体験談等を見て、幼児とのふれあい活動の様子を知る。—②
- 体験学習の内容を理解する。
- ★幼児とのふれあいを意欲をもって取り組もうとしている。■

展開 1 幼児とのふれあいの手だてを考える。

- 今までに学習した幼児の心身の発達や生活の特徴をふまえて、楽しく過ごす遊びや接し方を考える。
- 訪問する時のグループを作る。（生活班や課題別グループ等）
- 交流する幼児の年齢、人数等を確認する。
- 交流する年の幼児の心身の発達に応じた関わり方ができるように援助する。
- ★学習した基礎的な知識を活用しようとしている。■・■

#### 教材の扱い方

幼児と遊ぶなどのふれあいやかかわり方の工夫ができるようにするため、施設訪問などの計画を立てる。

幼児とともに遊ぶことは貴重な体験。幼児の生の姿にふれて学ぶことは、生徒によって、ふれ合う相手によっても変わってくる。幼児の心身の発達など既習事項を踏まえて、生徒の興味・関心に応じて個々に課題を設定し、主体的に取り組めるようにする。

当日の予定	
9:45	中学校出発
10:00	幼稚園到着
10:00～10:10	はじめの会
10:10～10:20	対面の会
10:20～11:10	ふれあい交流
11:10～11:20	お別れの会
11:20～11:35	帰校

#### 本時の特設 ポイント解説

- ◆生徒への事前指導
  - ・幼児の実態を理解させる。
  - ・幼児と生徒が楽しめるような交流の内容・方法を考える。
  - ・かんたんな遊びを考えておく。幼児といっしょにつくれるもの、その場で遊べるメニューなど。
  - ・年長者として注意すべきこと、安全面の配慮などを具体的に伝える。
- ◆訪問先の日常生活を大切に
  - ・幼児に負担をかけない配慮が必要である。中学生は体も大きく、見知らぬ人であり、不安を抱くことがある。
  - ・一つの保育室に入る中学生は、できれば3～5人までにとどめることが望ましい。
- ◆幼児とふれ合うための課題の設定例
  - 子どもの成長と家族（自己の成長を振り返る）
    - ・「オギャーの日」インタビュー
    - ・「わたしの成長・あなたの成長」
  - 幼児と遊び
    - ・「小さな友だち」をウォッチング
    - ・「できるかな・年長さんと年中さん」
    - ・「好きなのはこんなおもちゃ」
  - 幼児の成長
    - ・「幼児から聞いたこんなことばあんなことば」
    - ・「けんか！ そのとき」

#### 本時のまとめ 次時の確認

- 本時の学習内容をまとめる。
- 次時の学習内容と準備について確認する。
- 次時の学習内容と持ち物、服装などの確認をする。—⑤

#### 次時の準備

- 先にお願した交流先との打ち合わせ、の予定・留意点などを確認しておく。
- 当日の服装や当日までの体調管理など保育園に向けたプリントを用意しておく（内容解説p.123～128）
- ❗ 生徒への事前指導とともに教師間の事前の打ち合わせが大切。訪問先と入念な打ち合わせをしよう。